

1. 評価結果概要表

作成日 2008年4月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0873800676
法人名	有限会社メディカルアシスト
事業所名	グループホームつくし
所在地 (電話番号)	茨城県稲敷郡阿見町曙176-3 (電話)029-887-2823

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年4月25日	評価確定日	平成17年9月29日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 3月 3日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤10人, 非常勤 6人, 常勤換算 8.8人	

(2)建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	木造平屋建て造り	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,416 円	その他の経費(月額)	約10,850 円	
敷金	有() 円	<input checked="" type="radio"/> 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(90,000円)	有りの場合 償却の有無	有 <input checked="" type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4)利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数	17名	男性	4名	女性	13名
要介護1	1名	要介護2	4名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.8歳	最低 63歳	最高 94歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	阿見第一クリニック・江島記念眼科歯科クリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の一角に、一階建ての和風建築物で住宅街の中の一つの住宅としての雰囲気があり、暖かみを感じる。特に注目すべき点の一つとして、地域への活動がある。事業所は自治会に入会し、地域の防犯パトロールや美化活動を中心に職員と利用者がともに活動を行っていることで、利用者の地域に対する役割の一部となっている。日々のプログラムの中の散歩や買い物などの時、同時に防犯パトロールや歩道の植え込みなどの整備を取り入れている。また地域の児童や学生の緊急立ち寄り所としての役割も持っており、地域の人々の中心となっている事が理解できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	家族との連携についての指摘があり、家族会を立ち上げ、家族との直接のコミュニケーションを充実させられるように工夫されていた。食事についての指摘があり、職員も利用者と同じ空間で食事を楽しむことができるよう検討しているが、現在のところ実現に至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価について、管理者を中心に自己評価を行い現状の把握に努めていた。職員については、今回の外部評価終了後に反省会を行い、現状の把握や改善について検討する計画がある。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を、偶数月の第4金曜日と決め、行政、地域住民、家族、職員の参加をもって定期的に開催され、現状報告や情報交換の場として話し合いが持たれており、不参加者も議事録にて閲覧できるようになっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの苦情や意見に対しては、苦情意見箱の設置および家族への直接的なアンケートなどを利用し、積極的に苦情や意見の収集を行い、それについて職員間で話し合いが持たれ、改善に向けて努力されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の連携については、事業所の理念にも揭示され、利用者が受容するだけの地域連携ではなく、利用者から積極的に地域活動に参加する、能動的な地域連携の体制を整えており、利用者の地域に対する役割の維持にも強く関わっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ふつうの生活が営めるよう、尊厳を守り地域に根ざした事業所で日常生活が継続できるよう、職員間で話し合い独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や休憩室といった共有空間などに理念を掲示し、来訪者や職員がいつでも確認でき実践できるよう工夫がある。また朝の申し送り時には、全員で唱和し日々の業務に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に密着した事業所となるよう、利用者が単に地域サービスの受容者とならないよう心がけ、積極的に地域に貢献する能動的な事業所を心がけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善点などは、積極的に受け入れ、外部評価のあとには必ず反省会を行い、今後のケアの質の向上に役立てている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第4週を運営推進会議の開催日と決め、地域住民や行政、利用者家族などの参加をもって開催されている。また事業所と地域の交流および認知症の啓発に努めている。		

茨城県 グループホームつくし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所の研修などの際に、行政の担当者との情報交換の時間を設け、サービスの質の向上に取り組んでいる。昨年より町内のグループホームの連絡会をつくり、意見交換の場を提供している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>2ヶ月に一度、定期的に利用者個人個人の通信を作成し現状報告を行うとともに、緊急時連絡先の確認、緊急連絡時は必ず記録に残すなど、連絡事項の保存を積極的に行っている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族にはアンケート調査を行い、意見や苦情の受け入れを行い、ケアの質の向上に取り入れている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動時は、利用者とともに職員の送別会などを行い、利用者が職員の異動を理解できるように心がけている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループ会社の独自の研修を積極的に受講し、研修報告会なども多数行っており、職員を育てる取り組みに積極的である。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>町内のケアマネ会に参加し、同業者との情報交換の場を設けている。またグループ内の事業所と連携し、利用者同士の交流などにも力を入れている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用時に事前に本人や家族の見学を行い、急な入居ではなくホームに馴染んでもらってから利用となるように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が自ら行える動作については、言葉がけを多くし、自力で行えるような支援をしている。本人の趣味を生かし、職員も一緒に活動するよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム独自の取り組みとしてハートプラン表というものをつくり、職員が個別に気がついた利用者の行動や様子を細かく書き込み、利用者の細かい要望や意向に対応できるよう心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスを行い、事業所独自のハートプラン表を利用し利用者の把握に努め、介護計画に反映させている。	○	介護計画や目標がはっきりと示されている。これらを記録に反映させることによって、今後さらなるケアの向上が期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	事業所ケアマネジャーを中心とした月に2回のカンファレンスで、見直しや介護計画の立案が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所で対応できることに対しては、積極的に受け入れる体制となっている。家族の宿泊は現状では困難だが、家族とともに外泊してもらうなどの支援体制がある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に受診希望医療機関を聴取し、利用者の意向に沿った医療がスムーズに提供できるよう心がけている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の受け入れは、利用者の希望により受け入れている。	○	終末期看取りを実際に行っているが、今後は家族等のトラブル防止のため同意書など書式の整備を行っていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報極力持ち出しの無いように最小限にとどめ、メモなどもシュレッダーなどを使用し抹消している。また記録物など個人の名前などは、情報を遮断し外部から確認できないよう工夫されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所では、ある程度の日課を決め、入浴や食事、休息などの時間は、利用者の意向に沿うよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、準備や調理などに利用者も参加し、コミュニケーションをとりながら全般で関わるよう心がけている。	○	準備や調理など、積極的に利用者に関わりを持ち支援しているので、その流れを持って、食事時間も職員とともにできるよう工夫されたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午前、午後、夜間の入浴時間を作り利用者の希望に沿えるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や趣味など入居前に情報収集し、その情報を基に利用者が事業所内で役割を持てるよう配慮している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の活動に散歩を取り入れている。また買い物などの際は地域の防犯パトロールなども兼ね、利用者が地域の役割を外出とともに担えるよう工夫し、単なる散歩や外出にならないよう独自に工夫し実践している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は中央の玄関や、居室については施錠していない。夜間は防犯上、施錠を行っている。また日中は玄関にセンサーをつけ安全に配慮している。	○	非常用の扉には、防犯以外の施錠をしないよう配慮されたい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間は当直者以外に自宅での待機者を3名設置し、災害および緊急時に即時に対応できるよう配慮している。また大型災害時に利用者の食料や飲料水が確保されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員がカロリーなど計算して一ヶ月の献立を作成し、食事量や水分摂取のチェックを行っている。また水分出納の管理が必要な利用者については、医療機関と連携し水分量の把握に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所の周りには、季節の草花などを植え季節感が味わえるよう工夫したり、共有空間には、その時期のゆかりの物を設置するなどし、居心地よくまた季節を味わう工夫がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ベッド、タンス以外は持ち込みが可能になっており、入居者独自の居室が作られ、利用者個々の空間となっている		